

南朝正平十三年 北朝廷文三年四月三十日

八七〇

物被指返候様こと被思召候ハ、御在國之内之儀御座候條、書付御調可被
差出候、左候ハ、可致其沙汰候、爲其申入候、恐惶謹言、

完戸八郎左衛門

八月廿二日

在判

裏ニ
乗福寺

〔室町家御内書案〕
下

祐阿爲御使被仰出、今度大覺寺御門跡越前より御上洛候時、從朝倉入道方、
鹿苑院殿様御自筆之物、一幅、大切也、并御感狀、七通、備上覽之、將又等持院殿様
軍陣御影ワ一幅、青地、錦御直垂、淺黄糸御鎧、廿四さしたる御矢、重藤御弓、大ク
ケチ也、御影ノ上ニホウ居之、同掛御目候、此御影ヲハ、致進上之由申之云々、仍御内
書兩通可被成下候、御案文可渡調進之由被仰下候、何も被持下拜見させら
れ候也、隨而御案文則令調進上也、○案文

〔尾張名所圖繪〕

前編四
愛知郡

金寶山地藏院同所石橋といへる所にあり、寺寶

尾張地蔵
院ノ小具
足馬上ノ
像

足利尊氏公像土佐光信筆にて、小具足馬上の繪、集古十種よも出づ、容鉢

〔特別保護建造物及國寶目錄〕